



杉村楚人冠記念館・白樺文学館が登録博物館に認定 「歴史・文化のまち 我孫子」をPR

杉村楚人冠記念館・白樺文学館が、令和7年度に千葉県へ登録申請し、令和8年4月16日付けで文化庁が定める登録博物館に認定されました。我孫子市の登録博物館は鳥の博物館を含め、3館となりました。

登録博物館になることで、信用や知名度の向上が期待できるとともに、災害時の復旧工事にかかる補助などの優遇措置を受けられます。

「歴史・文化のまち 我孫子」として、さらに魅力を発信していきます。



◎登録博物館とは

日本では、博物館法に基づき「登録博物館」として国が認めた施設のみを法律上の博物館と位置づけています。この登録制度は、文化施設や教育施設として、必要な専門性と公共性を確保するために設けられています。登録されるためには、単に展示を行っているだけでなく、資料の適切な管理や専門職員（学芸員）の配置、必要な設備など一定の基準を満たす必要があります。

【問い合わせ】

我孫子市教育委員会
生涯学習部 文化・スポーツ課
担当：今野
電話：04-7185-1583

◎杉村楚人冠記念館

大正13(1924)年に建てられた旧杉村楚人冠邸の母屋をそのまま利用した施設です。平成20(2008)年に杉村家から寄贈を受け、平成22(2010)年に我孫子市指定文化財に指定しました。

杉村楚人冠(本名・杉村広太郎)は、明治末期から昭和前期の東京朝日新聞社で活躍したジャーナリストです。魅力的な文章の執筆はもちろん、日本で初めて新聞社に調査部や記事審査部を設け、新聞の縮刷版を企画、発行するなど、新聞界の発展に尽力しました。



開館日時 火曜日～日曜日(月曜休館) ※祝休日の場合は翌平日
午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

場 所 我孫子市緑2の5の5

入館料 300円(高校・大学生200円)

※中学生以下・障害者手帳をお持ちの方(本人と介助者1名まで)無料

電話番号 04-7187-1131

【今後開催予定の企画展示】

「ジャーナリスト楚人冠ってどんな人？」

期間 7月15日(水)～10月12日(祝)

国際的ジャーナリスト・杉村楚人冠とは何をした人なのか？どんな人生を歩んだのか？我孫子市とどんな関係があるのか？16点の書簡や書籍などと共に漫画を交えて、子どもにも親しみやすく「楚人冠」を紹介します。



▲杉村楚人冠イラスト

企画展示資料紹介：杉村広太郎『湖畔吟』^{こはんぎん}東京朝日新聞社、昭和3(1928)年12月



▲『湖畔吟』初版本

関東大震災の翌年、楚人冠は一家で我孫子に移住し、亡くなるまでの21年間を過ごしました。『湖畔吟』は、移住後に自身が企画した写真新聞『アサヒグラフ』で連載された、我孫子での暮らしを紹介した随筆です。『湖畔吟』の人気により、一躍我孫子は当時の東京朝日の読者の間で有名になりました。

【問い合わせ】

我孫子市教育委員会 生涯学習部
文化・スポーツ課 杉村楚人冠記念館
担当:武藤
電話:04-7187-1131

◎白樺文学館

平成13(2001)年、白樺派の文人たちの活動を広く次代に伝えるため、佐野力によって建設されました。その後、佐野氏からの寄付の申し出を受け、平成21(2009)年から市が管理・運営を行っています。

文学館の前には志賀直哉が住んでいた住宅跡や書斎があり、我孫子市と白樺派の関係を示す資料を収集・展示しています。



開館日時 火曜日～日曜日（月曜休館）※祝休日の場合は翌平日
午前9時～午後4時30分（入館は午後4時まで）

場 所 我孫子市緑2の11の8

入館料 300円（高校・大学生200円）

※中学生以下・障害者手帳をお持ちの方（本人と介助者1名まで）無料

電話番号 04-7185-2192

【現在開催中の企画展示】

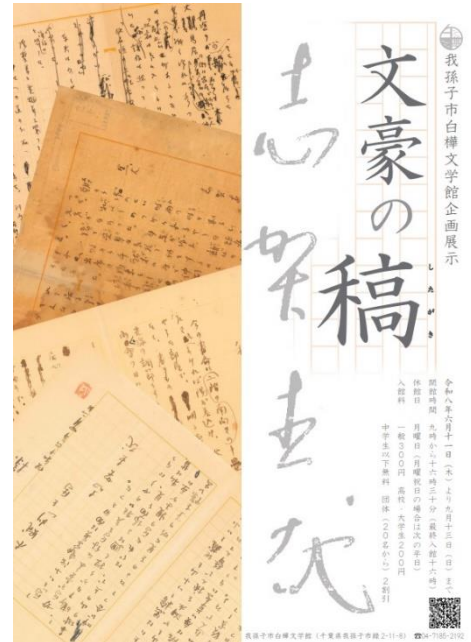
「文豪の稿」^{したがき}

期間 6月11日（木）～9月13日（日）

我孫子に暮らした白樺派、文豪・志賀直哉の遺した直筆原稿類を中心に展示します。



▲企画展示の様子



【問い合わせ】

我孫子市教育委員会 生涯学習部
文化・スポーツ課 白樺文学館
担当：手嶋
電話：04-7185-2192



我孫子市白樺文学館企画展示

したがり

文豪の稿

土心 か 五 次

令和八年六月十一日（木）より九月十三日（日）まで

開館時間 九時から十六時三十分（最終入館十六時）

休館日 月曜日（月曜祝日の場合は次の平日）

入館料 一般300円 高校・大学生200円

中学生以下無料 団体（20名から）2割引

